KIF UPDATES
公益財団法人かながわ国際交流財団
活動紹介記事などFacebook 抜粋版
www.kifjp.org/045-620-0011　　2020年3月1日発行

KIF Facebookコラム　Vol. 15
ローマ教皇にあてた少年の手紙
専務理事　水田　秀子

昨年11月、バチカンのフランシスコ教皇が来日され、被爆地の長崎と広島を訪ねて、世界に向け核兵器廃絶を明確に訴えられたことはご記憶に新しいと思います。東京の集会やミサでは、福島原発事故の被災者や避難者ともお会いになり、その苦しみを分かち合われました。

その数か月前、所属するグループの仲間とともに福島市内のある教会を訪ねた折、今回の訪日のきっかけの一つとなった、十六歳の少年の、ローマ教皇に宛てた手紙を紹介されました。東京での集会の際、福島からの避難者を代表してスピーチをした、あの少年の手紙です。

未曽有の原発事故から既に９年が経過した現在、現地では放射能汚染について心配ごとを口にすると、「今さら何を言っている」と周囲から批判を受けるとの話を、福島訪問中度々耳にしました。附属保育園や、子どもの甲状腺検査を続けている市民団体でも同様な嘆きの声を聞きました。同行したメンバーはあれだけの被害を受けた者同士が、なぜ苦悩を共有できないのだろうと衝撃を受けていました。まるで何事もなかったかのように暮らしている。隣に住んでいる人とさえ、腹を割って話をすることなく、苦悩と葛藤を抱えながら口をつぐんでいなければならない、一体それはなぜなのでしょうか。

少年の手紙には、いわき市の自宅は避難区域ではなかったけれど、変わらない程高い放射能汚染被害を避けるため、家族で東京に自主避難したこと、転校先の小学校で苛め抜かれたことが書かれています。図工の工作物にいたずらをされ、理不尽な暴力を振るわれ、常に命の危険を感じるほどのいじめだったそうです。「家が壊れていないのだから被害は無かったのに、多額の賠償金だけもらって東京にタダで住んでいるズルイ人たち」と思われたのだろうと、健気にも分析しています。

余りの辛さに中学校進学時、出自を隠すため遠く離れた学校を選び、しばらくは平穏な日々を取り戻しますが、自分の本当の気持ち、自分自身の一部である福島での生活を隠し通すことに耐えきれなくなって、この手紙を書いたと綴られています。そしてこの中に、先ほどの疑問の答えが書かれてありました。

「本当は東京電力や国が、放射能汚染の恐ろしさや、汚染の実態を隠蔽しなければ、そして僕たちのような区域外避難者にはほとんど賠償金が支払われていない事などを、きちんと広く伝えてくれれば、こんな事は起きなかったと思います。同じ時期に転校した避難児童の多くが、程度の差はあれ、いじめを受けていました。」

「何故、ぼくらは、避難しているというだけで、いじめられるのでしょう。子どもだけではありません。大人達も様々な差別やいじめ、誹謗中傷を受けています。被害に遭ったものが、更にいじめや差別を受けるのは、何故なのか。それは、原発が国策であり、その被害者の証言は国策を否定するものとなるからです。原発政策をこれからも拡大していくために、被害を矮小化し実態を語らせまいとする為政者たちの歪んだ政策やプロパガンダが、大人だけでなく僕たち子どもの世界まで狂わせているのです。」

避難児童のいじめについては、横浜を含め各地でニュースに取り上げられてきました。けれども、今回の事故とその後の対応が、何の罪もない子どもの心をこれ程までに苦しめていたことに思い至っていなかったことを改めて知らされました。未曽有の原発事故の被災者がすぐ身近に暮らしているのに、私たちはそれに気づかず、遠くの過ぎ去った出来事と感じているのではないでしょうか。過去を否定するものは、自己を否定するものだという少年の見事な喝破を受け止めなければなりません。

民際協力基金助成事業、今年も実施中です

財団が1993年から行っている「かながわ民際協力基金」は、2019年度も7団体8事業に約180万円の助成をしています。その中の一つ、「Sharin Caring Culture」をご紹介します。こちらの団体は横浜市青葉区・都筑区を拠点として、日本語でのコミュニケーションが難しい子育て世代の外国籍家族への情報提供や関係性づくりをおこなっています。英語での親子交流会、小児医療などに関する勉強会、多文化イベント、英語による生活情報冊子の作成・配布などを実施しています。
本年度の助成内容につきましては、財団ホームページ（http://www.kifjp.org/fund/news/368）をご覧ください。

また、「かながわ民際協力基金」は、来年度より助成内容を変更し、事業を新たに募集いたします。

詳細は「かながわ民際協力基金」ホームページ(http://www.kifjp.org/fund/)に追って掲載されますので、どうぞご期待ください。

かながわ円卓会議シンポジウムを開催しました

2月15日（土）、かながわ円卓会議シンポジウム「グローバル社会における“市民性”を育む～かながわで共に生きていくために～」を開催しました。

はじめに、移民政策などを専門とする国士舘大学教授・鈴木江理子先生から、多文化化する日本社会の現状を踏まえながら、異なる文化的背景を持つ人同士が「共に生きていく」上で必要となる政策や「市民」が出来ることについてお話がありました。

続く事例報告では、川崎市で長年、民族差別撤廃に向けた活動を続けてこられた、ヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネットワークの山田貴夫さん、民族学級講師や外国籍県民かながわ会議委員などを務めてこられた、NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンターの柳晴実さん、外国につながる高校生たちの支援に長年、携わっているNPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ理事の山根俊彦さん、そして、難民の経験やスキルを活かした就活等の事業に取り組むNPO法人WELgee代表の渡部カンコロンゴ清花さんから、それぞれの活動を通して得られた、「共に生きる上で重要な視点／政策」についてお話を伺いました。

後半のグループワークでは、（一社）グローバル教育推進プロジェクト代表理事の辰野まどかさんのファシリテートで、「①前半の講師陣の話から見えてきた課題」、「②それらの課題に対して出来ること」、そして、「③同じ市民として自分に何が出来るのか」の3点についてディスカッションをしました。講師も加わった各テーブルでは活発な意見交換が行われ、終始楽しく、かつ、有意義な時間を過ごしました。

2000年に始まったかながわ円卓会議は本シンポジウムを持って終了となりました。グローバリゼーションがもたらす多種多様な影響について考え続けてきた本事業は、講師の皆さん、企画・運営に携わって下さった皆さん、そしてご参加下さった皆さんのおかげでこれまで続けることが出来ました。今後は形を変えて、より多くの皆さんに関心を持っていただき、参加いただけるよう、類似したテーマでのセミナー／シンポジムを開催していく予定です。引き続きどうぞよろしくお願い致します！！！

【報告】小学校の入学説明会「外国につながる家庭にどう伝える？」

この春に新1年生として入学する子どもたちと保護者が、横浜市立日枝小学校に集まりました。
全校児童のうち、およそ2割が外国につながる子どもたちというこの小学校では、“日本の学校に慣れていない”保護者のために別室で詳しい説明をしたり、通訳やオリジナルの多言語ガイドブックも用意しています。
「赤鉛筆は色鉛筆とちがうの？　芯が赤くなくちゃいけないの?」
「指定された銀行での口座開設はいつまでにやればいいの？ 子どもの名義で開くの?」
「赤白帽はどこで買えるの?」
このような外国人保護者からの質問に中国語で答えている保護者がいました。
　この方はボランティアとして説明会に参加されていて、お子さんが国際教室に在籍している先輩保護者でした。
　たとえ、日本に長く住んでいて通訳は必要ありませんよ、という方であっても、入学前に買い揃えなくてはいけない道具や、各種手続きなどについては分からないことがあるようです。
「ハサミは壊れやすいから、近所の〇〇スーパーで買うといいよ、キャップ付きね」と、具体的なアドバイスも。地域の先輩保護者だからこそ知っている情報も伝えられていました。
　先生たちにとって、多言語で資料を作ったり通訳を手配するといった準備は簡単なことではありません。
　それでも、入学説明会に集まったすべての保護者に対して、「本校には外国につながる児童が大勢いて、グローバルな環境で共に学んでいます」という校長先生からのお話や、学校全体での取り組みとして見せるという姿勢は素晴らしいことだと感じました。
　このような取り組みが、多くの小学校に広まるといいですね。

【報告】韓国の移住女性支援団体のスタッフの来訪がありました

　2月17日に、韓国・京畿道で移住女性の人身取引被害者支援に取り組んでいる「Durebang」の皆さんの来訪がありました。
　女性のためのシェルター運営やカウンセリングなどを行っていますが、近年支援対象者の出身国・地域が多様化しているそうです。
　日本における移住女性・家族支援の取り組みに関心をおもちということで、財団で行う多言語支援センターかながわや子育て・教育支援の仕組みなどについてお伝えしました。
　長年支援に携わる方々から韓国の実情について聞くことができ、大変参考になりました。
Durebangの活動についてはこちら（韓国語・英語）
http://durebang.org/

高校生向けインターナショナル・カフェ／料理交流

2/15に県内高校生とYMCA健康福祉専門学校日本語学科の留学生（中国、台湾、ベトナムと、フィリピン出身）の料理作りと交流を実施しました。4つのグループに分かれてそれぞれ1品ずつ作ったらとても美味しいインターナショナルランチプレートが出来上がりました。中国と台湾の留学生が考えたデザートメニューは糖葫蘆（フルーツ飴）です。ミニトマト、ブドウ、キウイフルーツやイチゴなどを串に刺して、氷砂糖を長時間かけて溶かした透明な暖かいシロップに付けて、一気に氷で冷やすとシロップがフルーツの周りに固まり飴のようになると参加した高校生も新鮮な方法に興味深く見たり、体験したりしました。

その他にベトナムの揚げ春巻きやチキンスープとフィリピンのポークアドボライスも野菜や薬味を細かく切る下準備の作業から留学生の指導を受けながら作りました。後半は専門学校生がファシリテートして、いろいろな遊びを通して留学生と高校生が交流しました。遊びの後は少人数で一日の感想をシェアし、大変に盛り上がった一日となりました。

2020年度もインターナショナル・カフェを開催予定です。外国人住民や留学生と高校生の出会いや気づきの場となるよう、工夫して企画していきたいと思います。

（アンケート抜粋）

「今まで交流したことのなかった国から来た方々ともたくさんお話しで来て楽しかった。文化やルーツなどは全く違っても料理やゲームを通じてみんなで一つになれた気がした。来年も是非参加したい。」

「料理している時もゲームをしている時も新しいことも学ぶことができ、とても楽しかった。去年よりも話す時間が多く交流することができた。今日のカフェのようなイベントにもっと参加したい。ありがとうございました。とても良い経験になった。」

「たくさんコミュニケーションができとても楽しかった。同じアジアで隣の国でも文化やテクノロジーが違ってびっくりした。」

「料理も美味しかったしたくさんコミュニケーションをとれた。」

「日本人は最初に話す時すごく気をつかって話したけど、慣れるとすごく仲良くできました。（留学生）」

【報告】高校国際教育支援事業を開催しました

今年度も神奈川県内の高校向けに国際教育の企画相談と講師派遣を行っています。今年度は定時制高校からの依頼が続いておりますが、この頃の定時制には外国につながる子ども達が多く、クラス内はまさに多文化共生の場です。

9月26日（木）は県立平塚商業高校定時制にて、漫画家、星野ルネさんの講演を行いました。星野さんはカメルーン出身で『まんが　　アフリカ少年が日本で育った結果』（毎日新聞出版）の作者。全校生徒約90名を対象に行われた講演では、ご自身の体験を描いた漫画の映像を見せながら、「違いがあるって当たり前、できないと思い込んでいたこともゼロから本気でやればできちゃうんだ。」というメッセージが、子どもにも大人にも素直に心に響いてきました。ルネさんの笑いあり涙ありのお話しに、90分間熱心に耳を傾けていました。

【報告】シンポジウム「外国人住民が抱える課題と社会参加を考える」を開催しました

11月2日、東京都江戸川区議のプラニク・ヨゲンドラ（通称よぎ）さんと埼玉県川口市芝園団地自治会事務局長の岡﨑広樹さんを講師に、標記のシンポジウムを開催しました。

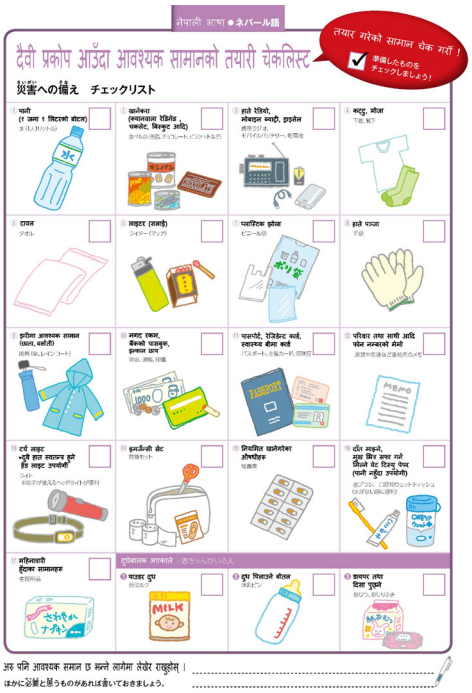
お二人が活動する地域はいずれも外国人住民が多い地域。よぎさんからはご自身がなぜ日本に住むようになり、区議になったのかというライフヒストリーを踏まえながら外国人住民が抱える課題と対応策についてお話し頂きました。

岡﨑さんからは、多様な背景を持つ人々の間では人間関係は“自然には出来にくい”ことを踏まえた上で、各々の間をつなぐ芝園団地での取り組みについてご紹介頂きました。

慶應義塾大学教授の塩原良和先生をモデレーターに迎えたパネルディスカッションでは多くの質問が会場から投げかけられ、活発な意見交換がなされました。

災害へのそなえは大丈夫？

災害用チェックリスト「災害への備えは大丈夫？」を、あらたに韓国・朝鮮語、ネパール語、タイ語、インドネシア語、カンボジア語、ラオス語で作成しました。
非常持出袋や備蓄品など災害の備えについて、イラストも使い多言語で説明しています。多言語のチラシは、地域や自治会で開催する防災訓練などでも活用できます。
「災害への備えは大丈夫？」（言語別にこちらのURLからダウンロードできます）
http://www.kifjp.org/kcns/guide_japanese/#ks
言語：日本語、中国語、韓国・朝鮮語(*)、英語、タガログ語、ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語、ネパール語(*)、タイ語(*)、インドネシア語(*)、カンボジア語(*)、ラオス語(*)
*新しく作成した言語です。



今回新たに作成した防災チェックリストのネパール語版

お知らせ

【INFO KANAGAWAでネパール語配信始めます！】

多言語で生活に役立つメールを受信できる“INFO KANAGAWA”に、遂に、ネパール語が加わります！登録は無料です。ぜひ、お友だちや知り合いのネパール人に教えてください。
http://www.kifjp.org/infokanagawa/ne